

第 8 9 3 回

## 定例教育委員会会議録

日 時 令和 4 年 1 月 2 6 日 (水) 1 3 : 3 0 ~

場 所 益田市役所 大会議室

益田市教育委員会

## 第893回 教育委員会定例会

招集年月日 令和4年1月26日（水）13時30分～

招集場所 益田市役所 大会議室  
※教育委員はリモート参加

### 議事日程

第1 会議録の承認

第2 教育長報告

第3 議題

議第1号 教育財産（旧真砂中学校敷地）の用途廃止について

報第1号 「冬休み！算数・数学パワーアップ教室」の開催状況について

報第2号 島根県との共同研究及び国立歴史民俗博物館での企画展について

報第3号 旧割元庄屋美濃地屋敷茅葺屋根改修工事完了の報告について

第4 その他

(1) 協議

・益田市民体育館GHP空調利用料設定の考え方について

(2) 情報提供

・益田市・東京学芸大学・Dynabook（株）による一人一台端末活用実証研究事業成果発表会について

(3) その他

出席者

教育委員会	教 育 長	高 市 和 則
	教 育 委 員	梅 津 富美子
	教 育 委 員	中 野 純
	教 育 委 員	大 庭 隆 志
	教 育 委 員	齋 藤 哲 瑯

事務局職員	教 育 部 長	野 村 美夜子
	ひとづくり推進監	大 畑 伸 幸
	教育総務課長	長 嶺 勝 良
	学校教育課長	田 原 啓 文
	学校教育課参事	松 元 善 生
	文化財課長	山 本 浩 之
	人権・同和教育推進室長	岡 崎 勝
	美都分室長	田 中 一 史
	匹見分室長	齋 藤 一 臣
	教育総務課長補佐	齋 藤 勝 義
	教育総務課主任主事	岩 崎 俊 也

高市教育長

ただいまより第893回益田市教育委員会定例会を開催いたします。

まず、本日の議事に入ります前に、昨年12月26日より教育委員として着任をされました齋藤委員より一言ご挨拶をお願いいたします。

齋藤委員

それでは、挨拶をさせていただきます。齋藤哲瑯と申します。よろしくどうぞお願いいたします。

簡単に自己紹介をさせていただきますが、五十数年ぶりに益田にUターンして戻ってまいりました。それまでは旧文部省、今の文部科学省で勤務をしております、最後の肩書は社会教育監でございましたが、途中から文部省を辞めて、川村学園女子大学の教員として務めました。専門は領域からすれば教育社会学、それから生涯教育学、社会教育学と言ったらいいでしょうか、肩書からすれば現在川村学園女子大学の名誉教授ということになっております。それから、学位とすれば教育学博士、それから学部、大学院両方とも社会学を専攻しましたので、社会学の修士という肩書を持っております。

それで、これまでずっと文部行政、教育行政、それから教育というキーワードを通してやってまいりましたが、特に東京に出て行って子どもたちの様子を間近で見ていると、これでいいのだろうかという場面にたくさん出会いました。それは、例えばデパートで金魚を売っているのは当たり前でしょうけど、カブトムシを売っていて、カブトムシを買ってきて家で飼わなければならない。

それから、生活のパターンは、ほとんど地域社会、自然とは無縁で、私が言い始めたのですけども、限定された時間、空間、仲間、この3つの間が非常に限定された、限られた中での生活しかしていませんので、今人間関係がうまくつくれない。それから年齢を超えた人たちとの交流がほとんどない。地域社会の交流もほとんどないということで、これはユネスコもそうですし、OECDも世界の若者たちに調査をしているのですが、日本の若者たち、子どもたちは全般的に言って先進諸国の中でも低い領域の中に入ってしまったている。

それは何かというと、人間関係がうまくつくれない。それから自己判断ができない。それで会社に入っても今やめる率が高いのは、やっぱり人間関係ができないというのが非常に高いわけで、それはなぜかというと、先ほど申し上げた限られた時間、限られた空間、限られた人間関係の中だけでしか生きてきていない。つまり、もっと言えば、家庭、学校、塾しか知らない。地域社会とほとんど関係ない。

学校というのは、大体二十歳過ぎぐらいで終わってしまうのですけれども、それから人生80年から100年と言われている中においては、60年から80年は生きていかなければいけない。つまり社会の中で生きていかなければいけないということを考えると、もっと社会に私たちの目線を

向けて社会の中に飛び込んでいかないと、人物評価、人間的な評価も社会の中で評価されるから意味があるのであって、学校の中だけで、家庭の中だけでいい成績やいい子どもであってもあまり意味がないだろうと感じています。

だから、私は40年来まず実態を分からずして問題の解決策や方法論は見つかってこないという意味から、子ども、学生、社会人、それから学校の先生方、それから地域の方々、広くグローバルな視点で総合的に調査をやってまいりました。これをまとめて学会に発表したり、雑誌に投稿したり、あるいは文部科学省あるいは教育委員会の集まりというところに提供して、少し大きなうねりをつくったつもりではありますけれども、そんなことを経験しながらふるさとに戻ってきて、やはり益田というのは非常に生活しやすいし、自然も豊かだし、人間関係もいいし、これほど環境の優れたところはないだろうと自慢をしております、積極的に今SNSを使ったり、あるいは写真を送ったりしながら益田のPRに努めているところでございます。何か益田のこれから将来にわたって教育的にお手伝いできることがあれば大変うれしいと思っておりますし、どうぞ委員の皆様方並びに関係者の方々のご協力を仰ぎながら、微力ではございますけれども尽くしてまいりたいと、考えております。よろしく申し上げます。

高市教育長            ありがとうございます。そうしましたら、本日本予定をしております議事日程に入りたいと思います。

## 第1 会議録の承認

高市教育長            会議録の承認につきましては、先ほどご承認いただきました。

## 第2 教育長報告

高市教育長            次に進みまして、第2の教育長報告でございます。前回の教育委員会からの活動状況でございます。

12月24日の金曜日でございます。この日、高津給食センターに参りまして、この日が昨年の学校給食最終日ということで訪問をし、挨拶をしてきたところでございます。

続きまして、その後でございますが、叙勲伝達ということで、宮本清先生に叙勲の伝達とお祝いを申し上げてきたところでございます。

続きまして、12月26日でございます。市民学習センターで「冬休み！算数・数学パワーアップ教室」を開催いたしました。こちらにつきましては、26日から28日の間、3日間行いました。前回、夏にご報告をさせていただきましたものの今度は冬版ということでございます。こちら

につきましては、後ほど詳細に説明をさせていただきます。

続きまして、年が明けまして1月2日でございます。こちらは、本来であれば、昨年度、成人式を行う子たちでしたけれども、新型コロナウイルス感染症の関係で1年遅らせて開催をいたしました。こちらにつきましては、委員の皆様にも年明け早々からご出席をいただきまして、誠にありがとうございました。こちらは、約280名が参加しています。例年ですと、350名ぐらい集まるということでしたけれども、1年ずれたということもあり170名ほどの参加と聞いております。

その後でございます。また、1月9日でございます。こちらは、本年度は行うということでの成人式を行ったところでございます。ただ、こちらにつきましては、新型コロナウイルス感染症の流行状況等もございました関係で、本来であれば教育委員の皆様にもご出席をいただければと考えていたところでございますが、直前に来賓等はお呼びをせず、実施をするということで開催をさせていただきました。こちらにつきましては、成人を迎えるということで360名の若者が参加をして、盛大に行ったところでございます。

続きまして、1月14日でございます。小野中学校を訪問し、学校の状況等を見てきたというところです。

その後でございます。益田市の学校給食会の臨時理事会を開催いたしました。こちらにつきましては、今後の給食費等をどうするのかという議論を行ったところでございます。いずれ状況につきましては教育委員会のほうにご報告をさせていただき、ご審議等をいただくということを考えております。

1月24日でございます。こちら東京大学史料編纂所一般共同研究に関する検討会を開催いたしました。こちらにつきましては、本来であれば市内の妙義寺さんを会場として、いろいろな先生方をお呼びして、一緒に取り組んでいる共同研究について成果の発表また検討いただくことを予定していたところでございますが、昨今の感染状況等を踏まえまして急遽オンラインということで行ったところでございます。

教育長報告としては以上でございます。この件についてよろしいでしょうか。

教育委員

=全員了承=

### 第3 議題

#### ○議第1号 教育財産（旧真砂中学校敷地）の用途廃止について

高市教育長

それでは、これから第3の議題に移らせていただきます。

議第1号教育財産（旧真砂中学校敷地）の用途廃止についてです。事務

局より説明をお願いします。

長嶺課長

議第1号、旧真砂中学校の敷地、この土地の一部分を教育財産から普通財産に切り替えるというお話をさせていただきたいと思います。

お手元に図面があると思います。赤い線で囲った図面が2つあると思うのですが、大きいほうの図面を見ていただけたら分かりやすいので見てください。

今新しく真砂地区に小学校を中心とした複合施設を旧真砂中学校跡地に建設をしていこうというお話をこの間してきました。ここの敷地は真砂中学校があったところですが、今はもうありません。この中学校の跡地に真砂地区の複合施設を建設します。この複合施設の後方、山側のほうに島根県が砂防ダムを建設するという計画がございます。この砂防ダムに上がっていくため、島根県として、中学校敷地の一番端のほうを益田市から購入をして管理道として活用するという意向がありました。

それで、あわせてこの管理道、管理道と言いながら毎日使うようなものではございません。当然ここに複合施設を造っていくわけですから、この赤く囲った部分については、学校の教職員の皆さんが車などで入ってくる進入路として使っていただいて構いませんというお返事もいただいているという状況です。現在、ここは教育に関わる土地ということで教育財産の位置づけになっています。教育財産のままで島根県に売却するということはできませんので、これを普通財産に落としまして、教育委員会の手から離して益田市と島根県でいろいろな売買の話をしていくという形になっております。

全部でこの赤く囲ったところが3筆に分かれます。①番、ここが面積として140.26平米、この部分を教育財産から普通財産に切り替えます。それから、②番、132.34平米、この部分についても同様に対応します。③番、22.26平米、これについても同様に対応します。

あわせて黄色い線のところがあります。これは島根県さんが買われるところと、表の道路は益田市道です。この市道の中にこの部分が若干3.32平米出てきます。この部分については、市道の管理ということで普通財産に切り替えて土木課が管理をしていき、側溝等を整備するという状況です。これらを教育委員会で議決をいただいて、普通財産に切り替えたものを島根県と益田市で売買の契約を結んでいくという形になります。売買の単価につきましては、今現在島根県さんが不動産鑑定を取っているという状況であります。そういった手続に基づいて進めていくための最初の手段というところで、教育財産から普通財産に切り替えるという提案をして議論させていただきたいと思っております。以上です。

齋藤委員

今のお話だと、県のほうに土地を譲るということで、あと複合施設、その他、ダムも近くでできるようですけど、これは益田市が何らかの形で補

助したりとか補填したりとか財政的に何か負担をかぶることはあるのですか。

長嶺課長 複合施設については、益田市のほうで国の補助金を受けながら建設します。

齋藤委員 複合施設は益田市が造るということですか。

長嶺課長 はい、市立の施設になります。

齋藤委員 はい、分かりました。

長嶺課長 真砂小学校は耐震化し、この県の分については、県が国から補助金を受けながら独自に整備をしていきます。

高市教育長 そうしましたら、本件、採決に移りたいと思います。それでは、この件について承認いただけます方は挙手をお願いします。

教育委員 =全員挙手=

高市教育長 挙手全員ということで、承認されました。そうしましたら、事務局は議決に基づきまして処理をよろしくお願いいたします。

#### ○報第1号 「冬休み！算数・数学パワーアップ教室」の開催状況について

高市教育長 続きまして、報第1号「冬休み！算数・数学パワーアップ教室」の開催状況についてです。それでは、事務局より説明をお願いします。

松元参事 それでは、報第1号「冬休み！算数・数学パワーアップ教室」の開催状況についてご説明させていただきます。

資料を画面で共有させていただきますので、お待ちください。

それでは、「冬休み！算数・数学パワーアップ教室」を報告させていただきます。これは、以前ご説明させていただきましたけれども、益田市型中高一貫教育実現に向けた取組として、理工系人材を育てるという中軸の柱に基づく取組となっております。夏休みにも3日間行いましたが、今回冬休みも同様に3日間開催しました。期間は令和3年12月26日から3日間、場所は市民学習センターです。参加者につきましては、島根大学学生が13名、これは前回と同様でございます。それから、小学生18名、中学生が17名というところで、大学生、小学生、中学生を合わせて48名の参加がありました。

12月の教育委員会でも情報提供させていただきましたけれども、島根大学がCDPプロジェクトといいまして、キャリアデザインプログラムというものに取り組んでおります。そういったことで、今回夏と違いますが、実際島根大学の学生にこの企画と運営に関わっていただくというところで、また後ほどビデオが出てきますけれども、学生自身が実際に内容を考えて、それを実際に司会進行して運営もしていただくというところが前回と大きな違いです。そして、右側が小・中学生に配布したチラシになりま

す。そういったことで、島根大学それから小・中学生にアナウンスをし、準備を進めてまいりました。

実際の活動の様子ですけれども、約4分少々動画にまとめましたので、ご覧いただいてからまたご説明させていただきたいと思います。それでは、再生します。

＝動画視聴＝

いかがでしたでしょうか。当日、大庭委員さんにも来ていただきました。ありがとうございました。実は、終わった後これのアンケートを取りましたので、その内容を報告させていただこうと思います。

まず、大学生に取ったアンケート、人数は13名全員ですけれども、これを見ていただいたら分かりますけれども、この質問に対して全ての学生さんが最高値といいましょうか、「とても思う」という回答をいただきました。

「今後同じ企画があればぜひ参加したい」と、それから「子どもたちに指導することは楽しかった」、「益田市への興味、関心が高まった」、「算数・数学パワーアップ教室に参加してよかった」というところで、肯定的な回答をいただいております。

それから、小学生のアンケート結果です。これは18名全員から取ることができました。アンケート結果ですが、全ての質問に対して「とても思う」、「やや思う」と分かれはしましたが、肯定的な回答、「とても思う」、「やや思う」というのがほぼ9割を超えております。特に、私たちとしては、小・中学生の間で目指したい算数を好きだと、チャレンジしたいと、問題を解くことが好きになったというその興味、関心、意欲というものを高めたいと思っていますけれども、そういったことが小学生ではかなり高い回答をいただいております。

それから次に、中学生の回答結果です。17名参加ではありますが、最終日に1名欠席ということで、アンケートについては16名の回答になります。中学生に関しても、「とても思う」、「やや思う」という回答が全て9割を超えています。これは小学校同様、関心、意欲、それから問題を解きたいというその気持ちを高めたいということを含めて、特にうれしかったのは、難しい問題にチャレンジしたい気持ちが強くなったという上から4つ目の質問に対してですが、これが9割を超えました。前回の夏休みでは、小学生に関しては、この難しい問題にチャレンジしたいということが高かったのですけれども、中学生に関してはそれがまだ小学生に比べたら少し低かったということはありません。今回に関しては、前回の夏以上に子どもたちは非常に満足度が高かったのではないかということがうかがえます。

それから、今後の展開ですけれども、まだこれは確定ではありませんが、夏それから冬に開催してみても、やはりこのパワーアップ教室では算数、数

学の子どもたちの意欲を高めるということに有効ではないかと思っています。そうしたことを踏まえて、令和4年度は実施する日数を増やして、さらに理数系教科の学習の充実を図りたいと今考えておるところです。

今後も、そういった教室を含めた取組がありましたら、また皆さんに報告させていただきたいと思っていますので、今後もどうぞよろしく願いいたします。以上報告とさせていただきます。

梅津委員

第2回パワーアップ教室が予定どおり開催されて何よりでした。スタッフの皆さんが尽力されればこそそのことと思います。今後は、実施日数を増やして、理数系教科の学習の充実を図ることを検討されるということで続けて参加していただきたいと思います。

そこで、このたびは島大が28日まで学校という中で開催されたこともあり、参加できなかった学生さんもおられたとお聞きしました。参加しやすいように日程調整をしていただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

松元参事

ありがとうございます。おっしゃったように、年末28日までは授業日ということで、島根大学の学生、事務局からも期日がもしずれていればもっと参加したい学生がおられたということは聞いておりますので、できるだけ早めに大学の事務局とも調整しまして、参加したい学生さんが一人でも多く参加できるような環境に努めてまいりたいと思います。

梅津委員

分かりました。ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

齋藤委員

私も現場を見てないので具体的には分かりませんが、まず内容はどのようなものを具体的に子どもたちに提供したのか、例えば課題が問題になったと思うのですが、それをどのように解いていったのかということ。それから、全体的な目的が中高一貫教育の中で考えられた授業なのかと思うのですが、それが今回対象に入っていなかったのは何か理由があるのかどうか。

それからもう一つは、これはコロナの関係で難しいのでしょうけれど、合宿みたいな形で寝泊まりを共にしながらできたら、より一層効果があるのではないかと思っています。多分これは合宿を伴っていないと思うのですが、今は兄弟数も少ないし、異年齢の交流が非常に少ないものですから、年齢を越えた交流も少し来年度に向けてはいろいろな人の意見を聞いて、より積極的な内容に取り組んでいただけたらと思います。

それからもう一つ最後、これは3日間全部子どもたち全員が参加したのですか。途中で抜けた人はいるのでしょうか。よろしくお願いいたします。

松元参事

ありがとうございます。主に4点あったと思います。順番にお答えします。

まず、内容はどのようなものか、どのような教材なのか、どのように解いたかというご質問でした。これにつきましては、夏はですね、夏休みということで学校から課題が出されますので、まずそういった各校に出され

た課題を持ち寄っての勉強が中心でした。今回につきましては、まずは島大の学生に小学校、中学校ともにまず内容を半日分考えてもらいました。例えば、小学校で言うと、算数パズルというのでしょうか、数字を当てはめて、例えば3掛ける3、3列掛ける3行で合計が同じ数である、そういった算数がわくわく楽しくなるような教材ということを学生に考えてもらいました。

それから、中学生に関しては、島大生が考えたのが、実際に比例を使って、その比例は島大生が大学で習っている内容らしいのですが、比例が実は数学の世界だけではなく日常的に自分たちの身の回りで実際に生かされているのだというプレゼンをしながら子どもたちに考えてもらう機会をつくりました。

そのほかの教材につきましては、先ほどの動画でも少しありましたが、算数、数学のウォークラリーを行いました。これは学校教育課指導主事が中心になって考えまして、子どもたちが個人またはペアで順番に部屋を変えながら問題を解いていきます。解きながらどんどんレベルを上げて進んでいくということで、だんだん難しくなるけども、いろいろ場所を変えながら、人を代えながら解けるということで、子どもたちは大変興味深く問題を解いておりました。内容的には、その算数ウォークラリーというのは少し難しい問題もありましたので、よく島根県がやります「しまね数リンピック」的な内容も少し網羅しております。

それから最後には、子どもたちが持ち寄った課題というのも当然ありますので、最終的にはその持ち寄った課題というものに対応しながら子どもの課題を解く。または、持参しない子どもについては、こちらから小学校に関して問題集を渡しました。その問題集を渡して3日間で解くのですが、その3日間で解かない、間に合わない分については家に帰って解いていいということで、その問題集を配付することで今後の学びにも対応できる形にしておりました。

それから次に2点目ですが、全体的な目的ということで中高一貫教育のことをおっしゃったと思います。それで、1つ音声聞き取れなかったのですが、これは高校がなぜ入っていなかったというご質問でよかったですでしょうか。

齋藤委員

中高一貫の事業として行われているのであるなら、高校生が入ってもよかったですのかと思いました。ただ、事業の狙い等がありますでしょうか。

松元参事

ありがとうございます。狙いとしては、理数系の教科をまずしっかり子どもたちに好きになってもらいたいと、興味、関心を持ってもらいたいということがこのパワーアップ教室の目的です。中高一貫型を柱と捉えたときに、益田市としては特に理工系人材を育てていきたいと考えており、特に中高一貫教育を通して育てていきたいと考えております。だから、そ

の前提として、益田市としては保・幼・こ・小・中・高を一貫した流れの中で教育をしております、例えば保・幼でいきましたら保幼接続プログラムと、また小・中でいきましたら外国語活動を中心とした小と中の一貫、それから中高というところが今回の肝になるのですけども、その中・高の先にある大学、島根大学も新たな理工系学科を来年以降に増設するというところ、それと島根県も理工系人材を育てていきたいというところですので、大学、島根県全体もそういう理工系を育てていくという流れを基にして、益田市としましては中高一貫教育を高度理工系人材の育成ということで捉えております。

ですが、先程ご指摘があったように、高校については実は案も考えました。ですが、今回については、高校は見送り、まずは小と中と、それぞれの高校の先にある大学というところを接続することで、まず理科好きの、数学好きの子どもを育てようということで、今回は、高校を外しております。

それから、3つ目です。3つ目は、寝泊まりができないか、合宿ができないかということですので。まだ即答はできないのですけども、コロナのことも見ながら検討させていただきたいと思っています。ですが、この取組はまだ夏に始まって第2回目というところで、まだ発展途上にある取組だと思っていますので、そういったいろいろな可能性も含めてまた今後検討していきたいということを考えています。

それから最後、4つ目です。3日間全員参加したのかどうかというところですけども、3日間全員参加した子もいますけども、参加できない子どもも当然おりました。例えば、先ほど出たように、アンケート時点でも1名おりませんでしたし、途中、家庭の都合で来ることができないということでしたが、ほぼ全員の子が3日間を通して来たという結果になっております。以上です。

大庭委員

質問とそれから意見、感想等を含めまして3点ほどお願いしたいと思えます。昨年の12月の本当にこの算数・数学パワーアップ事業、ご苦労さまでした。私も1度ほどどんな様子か見に行かせていただきました。

その中で、まず1点目ですけども、12月の小学生、中学生の参加者、この出身校ですけども、これが大体市内の中心校にたしか在籍している子どもたちだったようにご説明を受けたと思います。

それで、今後のことですけども、やはり一応このたびの事業につきましても、益田市の小・中学校全体にこれは連絡しているものだと思いますので、なかなか周辺の子どもたちは距離的にも物理的にも出てくるのが難しい状況にあったりして、市内の学校とは少し不便な場面もあろうかと思いますが、やはり益田市全体でいろいろなところの小・中学校からこの事業に参加してもらえるとということが非常に理想ではないかと思っています。

そういった意味で、やはり今後はそういう周辺校の参加を促すということで、そこにおられる先生方にしっかりプッシュしてもらい、それから保護者へもしっかり啓発をするということが今後大事になってくるのではないかと思いますので、ひとつよろしくお願ひしたいと思ひます。これがまず第1点目です。

それから、第2点目ですけれども、アンケートについてですけれども、本当に先ほどもご説明にありましたように、大学生については本当にパワーアップが満点のようなアンケート結果が出て、非常に私もこれを聞いて大変うれしく思ひました。やっぱり島大生の協力が大いに期待できるのではないかと思います。このたび参加した大学生も、島大に帰ってこの評判を口コミで伝えていって、次回以降も大学生が積極的に参加してくれる、そんな状況をつくってくれるのではないかとすることを思ひ、大変うれしく思ひます。

それから、小学生、中学生のアンケートですけれども、これにつきましてもやはり若干1名程度アンケートに対して項目によっては少し否定的な意見もありましたけれども、全体的には9割以上、本当に肯定的にこのたびの事業を受け止めていて、算数それから数学についてこの事業を通して大学生に教えてもらうという経験を通して、算数、数学が今までとは違ってより好きになってきた子どもたちが多かったのではないかと思ひております。そういった意味で、小学生それから中学生のアンケート結果も本当によかったと思ひました。

それから、最後の3点目ですけれども、今年度は算数とか数学のパワーアップということで、算数、数学という教科に限定しておりますけれども、ご説明の中で来年度はさらに実施日数を増やしていくということで、多分算数とか数学も大学生と小学生、中学生との関わりをより一層進化させていくのではないかと思ひますけれども、来年ということではありませんけれども、再来年、その先とつなげていったときに、やはり算数、数学だけではなく、やっぱり理数教育ですから、理科についても少し、徐々にですけれども入れていくようなそういった在り方が出てくればいいのではないかとすることを思ひました。以上でございます。

松元参事

ありがとうございます。3点ご指摘いただきました。ありがとうございます。まず、1点目の参加者の出身校が中心部であったということについては、ご指摘のとおり、小学校、中学校ともにいわゆる市内の中心、少し大きな規模の学校がほとんどでした。これにつきましても、なぜ周辺校が参加できなかったか綿密な分析ができておりませんが、少し話題になっていましたのは、やっぱり年末忙しい時期で送迎が伴うと参加へのハードルが高くなる。ですから、子どもたちが例えば中学生で言うと自力で来ることができる距離、そういった距離的なものも影響があったのではない

かということがありました。ですから、それも含めてもう一回できるだけ大きな学校以外の子も参加できるような仕組みとか、仕掛けとか、呼びかけを含めて検討をする必要があると思いました。

それから、2つ目のアンケートについてです。これは、ほとんど肯定的な意見をいただきましたが、おっしゃっていただいたように、算数、数学を好きになる子どもたちを増やしたい、そういうことが目的ですので、これまでのよさを生かしながら、さらに算数、数学を小・中学校だけではなく、先ほどの話で高校を含めて興味を持って学んでいけるような素地づくり、下地づくりをしていく必要があると思っていますので、それをご報告させていただきたいと思います。

それから最後、3点目です。理数系、理科についての取組はどうかというご指摘ですけども、当面は算数、数学というものを主軸に置きたいと思っています。ですが、理科に関して言うと、実は松江の高等専門学校、松江高専と昨年11月に包括連携協定を結びました。そういったことを踏まえながら、例えば算数は島根大学をしっかりと通してもらおう。そして、理科系については松江高専との連携をするということを含めて理数系を今後また整理して取り組んでいきたいと考えています。以上です。

中野委員 質問と今後このような形で開催ができないのかというご提案ですが、まず参加者です。小学生18名、中学生17名ということで、これは1日当たりの参加者と受け止めていいですか。それとも、延べ人数でしょうか。

松元参事 これは1日当たり18名、つまり登録、申込みは18名あったということです。

中野委員 ありがとうございます。先ほど大庭委員さんからもありましたけども、遠方からはなかなか参加が難しいという印象を持ちました。映像を見ますと、実際に私も知った顔見知りの生徒さんも参加されていたという印象を持ったのですが、せっかくこうして今私たち教育委員会でもオンラインという形の会議ができているわけですし、あと小・中学生に対しては1人1台タブレットということで端末等の配付もされています。そういったツールを活用しながら、ハイブリッド、対面となおかつオンラインで、せっかくいい取組だと思いますので算数・数学パワーアップ教室の開催ができないものかと思います。いろいろな技術的なことやご家庭の環境等もあるのかもしれないのですけれども、せっかく大学生も来ているので、ある程度いろいろなことが可能性として広がってくると思いますので、課題を例えばメールで配付してそれを受信してそれぞれで解いてみるということもやってみる価値はあるのではないかと思います。ただ、受け取り側といいますか提案する側は非常に大変な労力もかかるかもしれないですけども、そうすると参加者も非常に多くなる可能性もあるでしょうし、先ほど遠方からのリスクといいますか、そういったものも多少なりとも参加しやすい環

境づくりというのもできるのではないかと思います。せっかくいいものなので、一人でも多く子どもがこのパワーアップ教室に参加できればいいと思いますので、ご提案です。以上です。

松元参事

ありがとうございます。オンラインによる参加というのはあまり私の発想にはありませんでした。ありがとうございます。夏には1人1台端末を使った授業を行いましたけども、ご指摘いただいたオンラインでの参加というものは、確かに端末があるという利点を生かす選択肢の一つではないかと思っています。

今回、島根大学の学生さんにいろいろアイデアをいただく中で、我々大人ではなかなか浮かばなかった授業のスタイルとかアイデアもありましたので、これは委員会ももちろんなのですが、島根大学の学生さんも相談しながら、よりそういった可能性ができないかということを検討していきたいと思っています。

中野委員  
齋藤委員

ありがとうございました。

これは小・中学生の参加者数は十数名ずつですけれど、この参加に当たっては手を挙げた子どもたち全員を受け入れたということでしょうか。それとも算数系に興味、関心のある子どもを受け入れたということでしょうか。

それから、もう一つ心配するのは、少し余計な心配なのですが、参加した子どもと参加しない子どもとその算数の理解度に差ができてこないのかなと感じています。少し余計な心配をするのですが、どうでしょうか。

松元参事

2点いただきました。1つ目の全員受け入れたのかどうかという点につきましては、一応アナウンスでは定員20名ということで呼びかけましたけども、結果的に20名以内に収まりましたので、申込みをされた方は全て受け入れております。

それから、2つ目の参加した子どもと参加しない子どもの差というのがどうなのかというところについては、その辺の傾向については検討する余地があると思いますが、参加した大学生、島根大学の学生、実際関わった学生の感想として、例えば算数、数学を理解できる子、それから理解が厳しい子の差が大きいと感じたという声はいただいております。ですから、例えばいわゆる持ち方としては発展系の問題でそれをさらに学びたいというコースなのか、またはそれを含めた入門編でやるというところで、対象をどうするかという点を含めて今ご意見をいただきながら、次回の募集のときにまた整理して募集をしたいと今思いました。

齋藤委員

先ほど大庭委員からもご意見があったのですが、なかなか地域によって子どもたちは参加しづらいと思います。地理的な条件だとか、いろいろな事情があるでしょう。そうだとすれば、逆に大学生を各学校に派遣して、学校に行ってもらって、そこで展開してもらおうという方法を考えてもいいのではないかと思います。子どもたちを1か所に集めるよりはそうい

う方法もあるかと思いました。これは聞き流していただいて結構ですけども、そんな感じもいたしました。以上です。

松元参事

貴重なご意見をありがとうございます。この意見をもう一回委員会の中で整理して、また次回に生かしたいと思います。ありがとうございます。

高市教育長  
教育委員

それでは、この件についてよろしいでしょうか。  
＝全員了承＝

## ○報第2号 島根県との共同研究及び国立歴史民俗博物館での企画展について

高市教育長

続きまして、報第2号島根県との共同研究及び国立歴史民俗博物館での企画展についてです。それでは、事務局より説明をお願いします。

山本課長

私から説明をさせていただきます。別添のレジュメをご覧ください。まず、1番目でございます。島根県との共同研究についてというところでありまして、この研究につきましては、平成30年度から令和2年度まで3年間行いました。島根県の古代文化センターと一緒に行ってまいりました。それで本年度、令和3年度はその成果の整理ですとか、また発表期間といったところで対応をしてまいりました。

概要については、主にかいつまんで申し上げますと、中世における津和野領の領主であった吉見氏という領主がございます。そして、我が町の中世の領主である益田氏、この両者の比較を通じた研究がテーマとなっております。

それで、成果の公開でございますけれども、まず島根県によりまして、昨年度の10月にシンポジウムがオンラインで行われたという経過がございます。そして、併せて島根県より薄めのパンフレットが刊行されております。併せまして、これは今編集中と聞いておりますけれども、本年度の3月にこの3年間の成果をまとめました研究の報告書というのが刊行される予定となっております。その中で、益田市におきましては、昨年度の秋口ですけれども、雪舟の郷記念館で「雪舟ゆかりの戦国武将展」といったものを企画いたしまして、一般市民の方に大々的に公開をしたところがございます。そして、あわせまして、この研究の期間に伴いまして、平成30年度から島根県古代文化センターの専門職員が益田市に駐在をさせていただいておりましたけれども、本年度3月31日をもってその契約が満了となりますために、駐在も終了になってしまうといったところを併せて報告をさせていただきます。大変残念ではございますけれども、今まで築き上げてきました県との太いパイプを生かしまして、今後ともまた研究、調査等と一緒によい成果を出していきたいというふうに考えております。

そして、2点目でございます。これは、国立歴史民俗博物館との共同研究についてというタイトルになっておりますけれども、こちらは別添のチ

ラシをご覧になっていただきたいのですが、この展覧会のご紹介をさせていただきたいと思っております。国の機関、国の博物館であります歴史民俗博物館とも共同研究をしてきておりまして、平成28年度から30年度まで3年間行いました。あわせまして、令和元年から本年度いっぱいまでどういった展示にしていくかというプロジェクトを発足いたしまして、私どもの文化財課の職員も派遣をしたといった経緯がございます。

それで、こちらの内容につきましては、主に益田西地区におきます中世日本の地域社会における様々な研究に取り組みました。これは中世のみならず近代、近世以降も含めましてそうした総合的な調査を行ってきました。この件につきましては考古学ですとか、また民俗学、そして文献史学といった様々な分野から専門家の方に来ていただきまして合同で調査を行ってきたという経過がございます。

その成果を、別添のチラシのとおりでございますけれども、今年の3月15日から5月8日までこの博物館があります千葉県佐倉市で大々的な展覧会を行うといった運びとなっております。特に益田市の研究を中心に据えてやっていただきましたので、その展示の中身につきましては、おおよそ3分の1以上が益田市の関係で紹介をしていただけるという大変うれしい内容となっております。

あわせまして関連事業です。千葉の佐倉市でそういった展覧会が行われますので、益田市のほうでも何か連携して取組を行っていきたく考えました。まず、その事業の1点目としまして、令和4年3月27日を予定しているのですが、**「日本遺産シンポジウム」**の開催を今現在予定して準備を進めている状況となっております。

また併せまして裏面をご覧になってください。こちらは国立の民俗博物館が主催になりますけれども、ここの歴博で**「歴博フォーラム」**といったパネルディスカッションとか講演会を4月16日に行うといった予定となっております。昨今コロナの関係でいろいろと大変な時期ではございますけれども、無事に開催されることを願いまして、私どものほうではまず益田市観光協会さんに企画展の来場者向けのツアーの造成を今お願いしております。そして、特に益田市文化財課につきましては、観覧につきまして市民に広く呼びかけていきたいと考えています。さらに、この同館のミュージアムショップでは、例えば文化財課が作成いたしました書籍ですとか、また物販も委託できるといった情報も入っておりますので、そうした形で何らか盛り上がるような施策を打っていきたく考えております。簡単ですが報告は以上です。

齋藤委員

これは、今ご説明いただいた益田からツアーをとという計画があるようですが、もう一つ東京に益田会、益田出身者が集まった東京益田会があります。結構大きい組織なので、そこへもPRをして、関東周辺にたくさん益

田出身者がいますので、何らかのアクションを起こしてもらったほうがいいかと思っています。

山本課長

ありがとうございます。確かに東京益田会とあと大阪にも益田会がご  
いますので、両方ともしっかりと周知をさせていただきたいと思っ  
ています。

高市教育長  
教育委員

それでは、この件についてよろしいでしょうか。  
＝全員了承＝

### ○報第3号 旧割元庄屋美濃地屋敷茅葺屋根改修工事完了の報告について

高市教育長

続きまして、報第3号旧割元庄屋美濃地屋敷茅葺屋根改修工事完了の報  
告についてです。それでは、事務局より説明をお願いします。

齋藤分室長

それでは、美濃地屋敷の屋根改修につきまして私のほうからご説明をさ  
せていただきます。まず、資料をご覧ください。この美濃地屋敷といいま  
すのが、今の形で皆さんに来て見ていただけるという形になったのが平成  
15、6年の頃です。それ以来、屋根自体は特に改修をしておりませんで  
した。近年、特には建物の裏側、それから国道側のかやぶき屋根について  
劣化がひどいということで、地域住民からもどうにかならないかという要  
望も出されておりました。計画といたしましては、令和3年度それから4  
年度の2か年をもって改修をしていこうというところの、まず第1期とい  
うことで今年度、令和3年度に屋根を2面ほど改修するという形で進めま  
した。

2枚目に写真がついているかと思っておりますので、ご覧いただければと思  
います。上の3枚が改修前の様子です。すっかりコケむして、雨のひどいよ  
うなときには中にもたまたま雨漏りがするということもあったようでござ  
います。一部には、松の木であるとかカヤであるとかも生えているという状  
況も見られました。これはやはり急いで改修しなければならないというこ  
とで対応しております。それで、本年度9月から12月までの間、9月8  
日着手の1月4日完了とありますけども、屋根自体は年内には大体出来上  
がっております。

写真について、下半分をご覧いただければと思っております。比較していただ  
ければ一目瞭然かと思っております。2面ですけども、しっかりと新しいかやぶ  
き屋根が完成いたしました。来られていた職人さんにお伺いをしたのです  
けども、前にふかれていたかやぶき自体が、少し厚さが薄いというお話も  
ありまして、今回は以前から比べるとかなり厚く仕上げられております。  
今はちょうど雪の時期ですので、なかなかかやぶきの状況が見れない状況  
であります。あとあわせまして冬期間、12月16日から3月15日まで  
は冬季の間休館をしております。3月16日からまた観覧ができる状況に

なりますので、来年度にまた続けて2期の工事も予定はされておりますけれども、取りかかりにつきましては現時点で梅雨明け以降ということで予定されております。そこまでの間をご覧いただけるかと思っておりますので、また道川地区にお越しの際にはご覧いただければと思います。工事費といたしましては2,440万円ぐらいかかっております。

それで工事の期間中は、地域のご意見もあったのですが、めったにかやぶき屋根の改修というのは見ることはできないということで、ぜひその様子を見せていただけないかというお話もあったのですが、工事関係者にも確認をさせていただきまして、今回の工事は裏面が中心でございまして、下のスペースがかなり狭い状況でございました。そんな中で、なかなか見ていただくには少し難しく、安全面を考慮し、工事期間中は入り口を閉めまして、工事関係者及び他の施設もございまして、その管理の方々だけという形で進めております。以上でございます。

梅津委員

かやぶきのカヤの調達が難しいとお聞きしておりますが、そんな中でこのたびかやぶき屋根の改修工事も完了しました。もう行かれた方も、また見学されてない方もぜひ行っていただきたいと思っております。リピーターはあまりおられないかと思っておりますが、足を運んでみたいと思われるような何か対策というか、予定はありますでしょうか。

齋藤分室長

この施設は、地元道川自治会に管理を委託しております。あわせまして、地元の公民館であるとか自治組織であるとかもいろいろな活用を検討されております。これまでも、一つの例でいきますと、市内からもたくさん来られましたけど、囲碁の大会であるとか、将棋の大会であるとか、たまにはバンドを呼んで中でステージを組んでバンド演奏があったりとか、精進料理の提供をされたりとか、あと琴の演奏があるとか、当然地元神楽社中もございまして、中での神楽の演舞等も過去に行っております。また、地域の公民館活動として菊の栽培をされておりますので、鉢物の菊の秋には菊花展という形で屋敷内の庭を使ってされております。また、美濃地屋敷祭りということで、秋の祭りの時期に合わせて、公民館、地域の方々が参加されているいろいろなそういった来場者を呼べる場の提供ということでされております。今後も、第2期の改修終了後もまた同じようにそういった活動の場としても使っていけたらと思っております。以上です。

梅津委員

ありがとうございました。

大庭委員

2点ほどお願いします。まず、カヤの調達が大変難しいということをおもよく常日頃聞いておるのですが、実際このたびの割元庄屋の美濃地屋敷のカヤというのはどちらから調達されたのでしょうか。

それからもう一点は、平成15、16年頃に大規模修繕を行ったということですから、このたびは令和3年、4年という形でやるということで、大体20年ぐらいの時間を経てやっていると思うのですが、やはりま

たさらにこれから先20年後には修繕ということをしていかなければなりませんので、そうすると今回の予算を見ても2,400万円以上かかっておるといふことで、やはりその辺の先々の見通しといいますか、そういったものについても考えておられるのかどうかを伺いたいと思います。よろしくをお願いします。

齋藤分室長

ご質問ありがとうございます。まず、1点目のカヤの調達のところですが、今回の工事に関しましては京都方面からカヤを10トントラック2台で運び込んで対応しております。なかなか地元の近くでということでは実際難しいので、最初に改修をするときに、地域からも少しでも手伝いができればということで、地元のあちこちのカヤを切って皆で集めてということで提供はしてみたものの、実質その中で使えるのが約1割程度しかなかったという過去の経過もございますので、その辺は専門の職人さんなり、その業者へ任せたほうが確実であるというところで、そのような対応をしております。

もう一点、今後の管理等について、また金額的なところでございますけれども、第2期工事に関しましては、今文化庁へ補助の申請を予定しております。これが工事費の2分の1の補助ということ、それとあわせまして残りは辺地債、それから過去匹見町時代に積み立てていた美濃地屋敷の基金がございますので、そちらで対応していきたいと思います。それで、通常毎年きちんと管理をしますと30年ぐらいはもつと言われておりますけれども、今回全面改修後にはその後の管理をどうしていくかということも含めて考えていきたいと考えております。以上です。

大庭委員

ありがとうございました。

中野委員

私も工事予算が非常にかかっているということが気になるところでございまして、未来志向的な話ですけども、現状の入館料というものが設定されていると思います。また、さらに第2回目の工事も発生するというところで、やっぱり財政が非常に厳しい中での支出というのが、一市民感覚で考えますと少し疑問に思うところもあります。ただ国の登録有形文化財という位置づけでもありますので、やっぱり残していけないといけないという半面もあると思います。ただ、やっぱり費用対効果のことも同時に考えていけないといけないことがあると思いますので、そのあたりは入館料の見直しとかということも出てくる可能性もあるとは思いますが、現状はどのようにお考えなのかお聞きしたいです。

齋藤分室長

現時点で入館は無料となっております。今ご意見がありましたように、今後はその辺も検討する必要があるかと考えています。また、これは今後の課題として対応していきたいと思っております。

大畑推進監

基金を積み立てております。その基金を今回取り崩すものであるということ。ただ、ここは辺地という地域であり、約80%交付税が入ってくる

ということですので約2割でできるということになっておりますので、非常に有利な起債を活用できるということがあります。それと基金をこれから継続的に積み重ねていくということ、2つを合わせながら登録有形文化財をいかに活用していくかという考えでございます。条例を改正し入館料を取るかどうかについては今後の検討課題の部分ですので、今後また事務局と話しながら検討していきたいと思っております。

高市教育長  
教育委員

それでは、この件についてよろしいでしょうか。  
＝全員了承＝

高市教育長

それでは、以上をもちまして定例会を終わります。  
次回は令和4年2月21日に定例教育委員会を開催いたします。現在の状況を踏まえてオンライン形式による会議の開催ということになります。よろしく願いいたします。それでは以上で定例教育委員会を終了いたします。ありがとうございました。

＝終了時間 15時10分＝